

明治時代、日本の絵画は急激な社会の変化の中で転換期をむかえます。西洋の表現も取り入れられ、新しい「日本画」を求めた模索が始まりました。この時代活躍した本県出身の日本画家として、伝統的な狩野派の流れを汲む山水画で力を発揮した山内多門がまず挙げられます。また、同時代に秀麗な美人画で認められていたのが益田玉城です。

一方、本県出身の洋画家では、太い輪郭線と鮮やかな色彩で独自の画風を追求した塩月桃甫が、大正5年に文展（文部省美術展覧会）に入選しています。また、力強い筆づかいで生命力あふれる女性像を描いた山田新一などが中央画壇で活躍しました。

ここでは、宮崎県を代表するこれらの作家の作品を紹介するとともに、版画にスポットを当てたコーナー展示も行います。本県出身の作家やゆかりの作家による作品の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	鱸 利彦	1894～1993	巴里の屋根	1930(昭和5)	60.5×72.8	油彩
2	津田 雄一郎	1923～1994	花競う	1953(昭和28)	65.0×72.7	油彩
3	塩月 桃甫	1886～1954	雀	1946-54 (昭和21-29)	28.1×39.3	水彩
4	塩月 桃甫	1886～1954	キリシマ	不明	27.5×39.4	素描
5	塩月 桃甫	1886～1954	ロボを吹く少女	1924(大正13)	60.6×45.0	油彩
6	塩月 桃甫	1886～1954	裸婦	1953(昭和28)	72.8×60.4	油彩
7	山田 新一	1899～1991	赤衣のヨランダ	1929(昭和4)	45.3×38.0	油彩
8	山田 新一	1899～1991	冬着のアーニャ	1984(昭和59)	116.7×80.5	油彩
9	山田 新一	1899～1991	ブルクセルにて	1970(昭和45)	37.8×45.4	油彩
10	山内 多門	1878～1932	水墨山水	不明	122.5×34.9	水墨
11	山内 多門	1878～1932	田家早梅	1920(大正9)	130.0×50.8	日本画
12	山内 多門	1878～1932	竹林七賢之図	1903(明治36)	142.2×86.2	日本画
13	益田 玉城	1881～1955	花盛り	不明	130.4×51.0	日本画
14	益田 玉城	1881～1955	題不明	不明	128.8×42.0	日本画
15	佐藤 小臈	1860～1928	小犬の図	1913(大正2)	85.6×35.6	日本画
16	鈴木 月谷	1835～1907	大黒図	1885(明治18)	103.0×35.8	日本画
17	有田 四郎	1885～1946	水鳥の浮かぶ池	不明	15.0×22.2	エッチング
18	有田 四郎	1885～1946	憩い	不明	15.0×22.1	エッチング
19	川西 英	1894～1965	日向青島	1938(昭和13)	22.4×29.4	木版
20	黒木 郁朝	1944～	山羊のいる家	1982(昭和57)	55.4×77.8	木版
21	黒木 貞雄	1908～1984	旭映巖頭	1975(昭和50)	63.4×86.0	木版
22	黒木 良典	1948～	関係体(森のイメージによる)	1982(昭和57)	62.0×55.2	木版
23	土持 和雄	1932～1995	赤と黒	1962(昭和37)	30.3×45.0	エッチング
24	加藤 正	1926～2016	風の塔	1957(昭和32)	39.6×25.8	リトグラフ
25	加藤 正	1926～2016	三人の旅人	1957(昭和32)	40.9×27.4	リトグラフ